

# 2020年度 学術講演会プログラム・抄録集

テーマ 「歯科におけるダイバーシティを考える」

2021年 3月 7日(日) 10:00～16:30

Zoom 開催

9:30～9:50 2020年度事業報告会

総合司会 野村 智義先生

10:00 野本 秀材会長 開会式

座長 富口 直樹先生

10:10～10:50 吉野 晃先生

一歯欠損の治療戦略  
～多様化する治療選択肢とインプラントを取り巻く環境～

座長 野本 秀材会長

11:00～12:00 今井 裕先生

歯科の専門性から歯科の在り方を考える  
- (一社) 日本歯科専門医機構創設の意義と今後の展望 -

座長 奥森 直人先生

13:00～14:00 市民公開講座  
名取 はにわ先生

私達とSDGs (エスディーゼーズ) - 特にジェンダー平等について

座長 柴垣 博一先生

14:15～14:35 柳井 智恵先生

多様性を活かす専門分野における歯科医師の育成

14:35～14:55 渥美 美穂子先生

ガラスの天井か? 自由の翼か?

14:55～15:15 立川 敬子先生

女性の活躍推進に向けた大学および学会の施策

15:30～16:20 座談会: 柳井 智恵先生 渥美 美穂子先生 立川 敬子先生 野本 秀材会長

16:20～16:30 閉会 森本 恭司副会長

## 2020年度 学術講演会 講演抄録

① 10:10～10:50



## 一歯欠損の治療戦略

## ～ 多様化する治療選択肢とインプラントを取り巻く環境 ～

吉野 晃先生  
東京都北区開業  
吉野デンタルクリニック

- 明海大学大学院歯学研究科卒業
- 歯学博士
- 明海大学歯学部機能保存回復学講座客員助教
- (公社) 日本口腔インプラント学会認定専門医
- (公社) 日本歯科先端技術研究所認定医・常任理事
- 日本顎咬合学会認定医・指導医
- OJ 正会員

Brånemarkらによりオッセオインテグレーションが発見されてからすでに50年以上が経過します。無歯顎への応用のみで始まった歯科インプラントの臨床は、新しい技術と概念を加えながら適応拡大を続け欠損補綴の一選択肢としての地位を確立してきました。単独歯欠損においても歯周病学的指標における5年間の経過観察では残存率が100%と報告されており、残存歯数の増加により少数歯欠損が増加した現代歯科医療のなかで自立型補綴装置であるインプラント治療の需要は益々大きくなることが予想されます。一方で、国民生活センターのプレスリリースに代表されるインプラント治療に対するネガティブな報告も後を絶たしません。学会のトピックスも積極的な適応拡大から「安心・安全」や超高齢社会に準じた「長期安定」に変化しつつあります。

欠損歯列に対する補綴治療の目的は「歯及び周囲組織の欠損から生じる咀嚼・発音機能や審美性の低下を回復し、患者のQOLの改善を図ること」とされています。多様な治療法の中から一つを選択する臨床判断を求められたと

き、インプラント治療は最優先の治療法として選択され得るものなのでしょうか？ただ欠損空間を補綴するようなインプラントありきの治療方針は患者をミスリードする可能性があります。同時に他の補綴術式がインプラントと比較し簡便であるということでは決してありません。

歯を喪失したことによる口腔内環境の変化は広く知られています。加齢とともに歯の喪失は増加しますが、年齢の要因よりもむしろ保有歯数の減少が新たな歯の喪失に至ることが報告されています。残念ながら歯科治療は再治療の繰り返しであることが多く、結果的に欠損拡大の負のスパイラルに患者を落としいてしまいがちです。介入を必要最小限にとどめ補綴治療によるやり直しのスパイラルに入れないこと、指数関数的に増加する欠損の流れから救うためにもインプラントによる欠損回復は大きな意味があると考えています。

世紀の発見と先人たちの努力の結晶を正しく引き継いでいくために、一歯欠損を通して改めてインプラント治療について考える機会に出来れば幸いです。

## 2020年度 学術講演会 講演抄録

② 11:00 ~ 12:00



## 歯科の専門性から歯科の在り方を考える

－（一社）日本歯科専門医機構創設の意義と今後の展望－

### The significance of the establishment of the Japanese Dental Specialty Board and future challenges.

今井 裕先生

（一社）日本歯科専門医機構 理事長  
獨協医科大学名誉教授・特任教授

わが国における歯科領域の専門医制度は、1973年日本口腔外科学会が「口腔外科専門医」制度を認定したことに始まり、以後、各歯学系学会が学会認定（専門）医制度の運用を行い、現在では日本歯科医学会（以下、歯科医学会）43分科会のうち、37学会が学会認定医・専門医制度を設けています。また、歯科医学会の分科会以外にも学会は数多くみられ、これらの団体により認定された認定（専門）医も存在しています。この学会認定の専門医制度は歯科医療・歯科医学の専門分化と深化を進めた一方で、必ずしも国民から十分理解が得られていないことが指摘されています。そのような観点から、2005年歯科医学会は歯科専門医制度のグランドデザインを策定、2010年には国民視点の歯科専門医制度の在り方について協議し、2012年には具体的な歯科専門医の在り方について示しましたが、いずれも活動は休止状態となり、歯科の専門性を協議することの困難さが窺われます。

しかしながら、2013年新たな医科専門医の制度設計が示されたことより、2014年（公社）日本歯科医師会（以下、日歯）と歯科医学会の両会長名で厚労省医政局長宛に「歯科医師の専門医の在り方に関する検討会」を設置するよう要望書を提出したことより、歯科の専門性に関する協議は急進展致します。つまり、2015年厚労省内に「歯科医療に求められる専門性に関するワーキンググループ」が立ち上げら

#### 略歴

1967年3月 芝学園芝高等学校卒業  
1973年3月 神奈川歯科大学歯学部卒業  
1973年5月 第53回歯科医師国家試験合格  
(歯科医籍登録番号第63155)  
1973年5月 千葉大学医学部附属病院 歯科口腔外科 医員(研修医)  
1981年4月 文部教官千葉大学医学部 歯科口腔外科学講座 助手  
1985年10月 文部教官千葉大学医学部 歯科口腔外科学講座 講師  
1988年1月 獨協医科大学 口腔外科学講座 講師  
1991年～ アメリカ合衆国北卡罗ライナ大学歯学部 客員研究員  
1992年  
1995年7月 獨協医科大学 口腔外科学講座 助教授  
2001年 アメリカ合衆国カリフォルニア大学  
ロサンゼルス校歯学部客員研究員  
2003年4月 獨協医科大学口腔外科学講座 主任教授  
2013年7月 日本歯科医学会副会長(2017年6月まで)  
2014年3月 獨協医科大学 定年退職  
2014年4月～ 獨協医科大学 名誉教授・医学部特任教授  
2016年4月～ 神奈川歯科大学 客員教授  
2016年4月 (一社)日本歯科医学会連合副理事長(2017年6月まで)  
2017年7月 日本歯科医学会総務担当理事(2019年6月まで)  
(一社)日本歯科医学会連合専務担当理事(2019年6月まで)  
2018年7月 (一社)日本歯科専門医機構総務理事(2020年6月まで)

#### タイトル

- 学位 (医学博士・千葉大学)
- 日本口腔外科学会認定医
- 日本口腔外科学会指導医
- 臨床修練指導歯科医
- 日本顎顔面インプラント学会指導医
- がん治療暫定教育医 (歯科口腔外科)
- 日本有病者歯科医療学会指導医・認定医
- 日本口腔腫瘍学会 暫定口腔がん指導医

#### 社会活動・役職 (現在)

- 日本歯科医学会 理事
- (一社) 日本歯学系学会協議会 副理事長
- (一社) 日本有病者歯科医療学会 理事長 他

れ、現行の歯科専門医制度における改善すべき問題点が指摘されたのです。これを受け、2017年日歯、(一社)日本歯科医学会連合ならびに有識者からなる「歯科専門性に関する協議会」が設置され、現制度では①専門医の認定基準を各学会が独自に設定していることから養成される専門医のレベルが異なっていること、②専門医資格の名称を見ても、その専門性の内容や水準がわかりにくく国民の理解が得られていないこと、③超少子高齢社会における歯科医療の在り方、そして明らかにされつつある口腔と全身との関係を勘案すると、医科とは異なる観点から歯科領域においても新たな専門医が必要であること、などが指摘されました。そして、質が担保された歯科医療を提供するための方策、システムとして歯科専門医を育成すると共に、国民に分かりやすく、中立性と公平性を有する組織での評価が必要で、第三者機構の設置は必要不可欠と結論づけられ、遂に2018年4月(一社)日本歯科専門医機構は創設されたのです。創設後2年余が経過した現在、広告可能な5領域については機構の認証が終わり、更に5つの新たな基本領域について協議が進められているところです。

講演では上記の内容と共に歯科の歴史を振り返りつつ、明日の歯科(専門医)の在るべき姿について述べさせていただきませんが、先生方からも建設的かつ忌憚なきご意見を賜り、今後の歯科専門医の育成さらには新たな歯科医療の創造に繋げていきたいと考えておりますので、どうか宜しくお願い致します。

## 2020年度 学術講演会 講演抄録

## ③ 13:00～14:00 市民公開講座



## 私達とSDGs (エスディーゼズ) ー特にジェンダー平等について

名取 はにわ先生

学校法人日本社会事業大学 理事長  
(元内閣府男女共同参画局長)

### 学歴

東京大学法学部 (昭和 48 年卒)

埼玉大学政策科学研究科 (現政策研究大学院大学) 政治学修士取得  
(昭和 55 年卒)

### 略歴

昭和48年 4月 法務省入省

平成 6年 4月 内閣官房内閣外政審議室(インドシナ難民対策連絡調整会議事務局)内閣審議官

平成 7年 4月 内閣総理大臣官房男女共同参画室長・内閣審議官  
(平成11年6月23日 男女共同参画社会基本法成立)

平成11年 7月 総理府日本学術会議学術部長

平成13年 1月 文部科学省生涯学習政策局主任社会教育官

平成15年 7月 内閣府大臣官房審議官(総合調整担当)

8月 内閣府男女共同参画局長

(平成17年12月 第2次男女共同参画基本計画  
(202030を含む)閣議決定)

平成18年 7月 退職

平成19年 4月 内閣府情報公開・個人情報保護審査会委員(国会同意人事)

平成22年 4月 同委員再任(国会同意人事)

平成23年10月 内閣府情報公開・個人情報保護審査会会長代理  
(平成25年3月退任)

平成25年 6月 特定非営利活動法人日本BPW連合会理事長  
(平成29年3月退任、同日、副理事長就任～現在まで)

### 現職

学校法人日本社会事業大学理事長 (平成 29 年 9 月 4 日から)

国立大学法人電気通信大学監事 (平成 28 年 4 月 1 日から)

### 賞罰

平成 30 年 (2018 年) 11 月 3 日瑞宝中綬章叙勲

1975年、国連が提唱した女性の地位向上に向けて世界各国が一斉に走り始めた。それから46年経った今、世界中男女平等を達成した国はない。だが、日本は、その中でも、顕著な後れを取っている。

世界のリーダーが参集するダボス会議を主催することで有名な世界経済フォーラムは、男女平等の実現が経済の発展をもたらすという考えの下、2006年以来世界ジェンダーギャップ指数を公表している。

2020年の日本の順位は153か国中121位。

2015年国連が提唱し、日本をはじめ世界の193か国が賛成したSDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) の第5目標はジェンダー平等である。このジェンダー平等は目標達成に死活的に重要で、他の全ての目標に関係している。

日本も、1999年に男女共同参画社会基本法を策定し、国、地方公共団体、国民が力を合わせて努力してきたはずなのだが。

私が総理府男女共同参画室長としてその成立に関わった男女共同参画社会基本法の意義を、改めて皆さんと共有したい。

その上で、ジェンダー平等は、なぜ、これほどまで重要なのか、こんなにも遅れている日本はどうしたらよいのか、皆様とご一緒に考えていきたい。

## 2020年度 学術講演会 講演抄録

④ 14:15 ~ 14:35



## 多様性を活かす専門分野における歯科医師の育成

柳井 智恵先生

日本歯科大学附属病院  
口腔インプラント診療科

近年、多様性のある働き方や多様な属性を持った人材が活躍できるような支援体制など、医療分野のダイバーシティが推進されています。それとともに、プロフェッショナル オートノミーの診療概念に基づき、患者から信頼される専門医療を提供できる医師の育成は重要と考えられています。

歯科分野においても多様性と専門性が求められています。男女共同参画の社会を実現するためには、女性歯科医師が継続的かつ自律的にキャリアを形成し、優秀な人材が活躍できるための環境の構築、多様性を活かす且つ専門性を維持するための施策が重要な課題と考えます。

本講演では、演者の専門であります口腔外科およびインプラント分野における歯科医師の育成や女性医療従事者への支援活動などについて、国内外での様々な取り組みをお話いたします。

## 略歴

1988年 日本歯科大学歯学部卒業  
 1993年 日本歯科大学歯学部大学院歯学研究科 口腔外科学専攻修了、博士(歯学)  
 1994年 日本歯科大学歯学部口腔外科第1講座助手  
 1997年 沼津市立病院歯科口腔外科医長  
 2003年 日本歯科大学附属病院口腔外科診療科講師  
 2004年 日本歯科大学附属病院口腔外科医長  
 2005年 スイス・ベルン大学医学部頭蓋顎顔面外科学講座客員  
 2007年 研究員, DMD取得  
 2011年 日本歯科大学附属病院口腔外科診療科准教授  
 2015年 日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科教授(現職)

## 社会活動

- 日本口腔外科学会専門医・指導医
- 国際口腔顎顔面外科専門医 (FIBCSOMS)
- 日本顎顔面インプラント学会専門医・指導医・運営審議委員
- 口腔インプラント学会専門医・代議員・監事
- 日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医 (歯科口腔外科)
- 日本口腔顎顔面外傷学会評議員
- ITI Fellow

## 2020年度 学術講演会 講演抄録

⑤ 14:35 ~ 14:55



## ガラスの天井か？自由の翼か？

渥美 美穂子先生

神奈川県横須賀市開業  
医療法人社団堯舜会 MA デンタル  
クリニック院長  
歯学博士  
日本歯科先端技術研究所理事  
日本口腔インプラント学会専門医  
日本補綴歯科学会専門医・指導医

経歴

1989年 神奈川歯科大学卒業  
1992年 神奈川歯科大学大学院博士課程修了  
1992年 神奈川歯科大学補綴学第一講座入局  
2004年 ミシガン大学留学  
2014年 神奈川歯科大学退職、MA デンタルクリニック開設

“ダイバーシティ”という言葉は初めて身近に感じたのは2004年から2年間、米国ミシガン大学に留学していた折だった。伝わらない英語でようやくコミュニケーションをとっていた時、ダイバーシティプログラム、ロトという単語が聞こえてきて、“グリーンカードがくじ引きでもらえる”と言っている。私のつたない語学力はどこまでいい加減なんだろうと…。しかし、それは本当だった。そこからダイバーシティという言葉の意味を考えるようになった。

その言葉が日本でも使われるようになって、一部では常識的な用語になりつつあるようだが講演となると、理想論を語る総論に拍手するものの、ひとり一人の現実、各論はそうはならないというギャップに直面することが多い。しかも、ダイバーシティは言葉通り多様なのだが、こうやって女性の講演者を並べられると、私たちはその中のジェンダー平等の話をするべきなのか？と付度せざるを得ない。

そんなとりとめもないことを考えつつ私の経験してきたことはダイバーシティなのか？キャリアはガラスの天井に当たったのか？いや私はいつも単に、自由の翼で羽ばたいていたかっただけという、回想録をお話して後半の座談会につなげられればと思います。

## 2020年度 学術講演会 講演抄録

⑥ 14:55～15:15



### 女性の活躍推進に向けた大学および学会の施策

立川 敬子先生

東京医科歯科大学  
インプラント・口腔再生医学分野  
インプラント外来

#### 経歴

1985年 東京医科歯科大学歯学部卒業  
1985年 東京医科歯科大学歯学部第二口腔外科学講座入局  
1990年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）  
1991年 東京医科歯科大学歯学部第二口腔外科学講座助手  
1997年 東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来講師  
現在に至る

#### 所属学会

日本口腔インプラント学会 専門医・指導医, 代議員, 監事  
日本顎顔面インプラント学会 専門医・指導医, 運営審議委員  
日本口腔外科学会 専門医  
日本口蓋裂学会, 日本頭頸部癌学会 その他

これまで女性の社会進出の壁として、キャリアに関する認識の低さ、男女の役割意識、育児／介護等のインフラ整備・支援不足、多様な生き方に対する受容度の低さ等があるとされてきました。

これを乗り越えるために、東京医科歯科大学では2008年から文部科学省科学技術振興調整費により「女性研究者への革新的支援モデル」の構築を開始しました。これが2009年度からは臨床家も含めた全学的事業へと発展しています。しかし、その当時掲げた活動目標はいまだに達成されたとは言い難く、今年あらたな具体策を打ち出そうとしています。

一方、日本口腔インプラント学会でも、2009年の学術大会から「女性インプラントロジスト育成のためのセミナー」を開催し、女性歯科医師の活躍の場を広げようとしたのですが、4年間でその活動は中断されました。

このように改革が進まない原因はどこにあるのか、今回、理想と現実のギャップについて考えてみたいと思います。